

1. 評価報告概要表

作成日 平成19年7月4日

【評価実施概要】

事業所番号	3092100019
法人名	株式会社さくらメディカル
事業所名	グループホーム松風みはま
所在地 (電話番号)	和歌山県日高郡美浜町和田824-9 (電 話) 0738-22-1101
評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会
所在地	和歌山市手平2丁目1-2
訪問調査日	平成19年6月14日

【情報提供票より】(平成19年5月22日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成18年5月1日				
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人	
職員数	15 人	常勤 14人, 非常勤	4人, 常勤換算	10.3人	

(2)建物概要

建物形態	併設/ <u>単独</u>	新築/改築
建物構造	木造 造り	
	2 階建て	1 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円		その他の経費(月額)	円
敷 金	(有)(135,000円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有)(180,000円) 無		有りの場合 償却の有無	(有) 無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200円			

(4)利用者の概要(5月22日現在)

利用者人数		12 名	男性 4 名		女性 8 名
要介護1		3	名	要介護2	2 名
要介護3		4	名	要介護4	3 名
要介護5			名	要支援2	名
年齢	平均	83.25 歳	最低	69 歳	最高 97 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	日高総合病院、木村歯科
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事務長・管理者・職員とも積極的に取り組んでいる。帰宅願望が強く不穏状態が続くため介護困難であった入居者が現在では、施設便りや、行事の記録作成にと協力してくれるようになり、表情も温和になった。職員たちはその努力の中で、多くの「感動」を得ている。その「感動」を糧にがんばり続けている態度は、施設の態度として今後も維持されるであろう。信頼の置ける施設というのは基より、職員たちが勝ち得た信頼を自信に変えている施設と判断する。法人全体の利用者への心配りが伝わってくる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 評価を受けるのは今回がはじめてである。
重点項目②		今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 外部評価結果を法人に報告するとともに、施設内だけでなく経営の間からも意見指導を受けていき、この機会を見直しの好機と捉えている。
重点項目③		運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 今後も積極的に会議を利用して、意見指導を受け、また役場、関係者に資料・会議記録・施設便りなどを持参し説明することで、より理解を得られるよう努めている。
重点項目④		家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 職員間の情報交換を密にして共有するように努める。月一回の家庭訪問時などには、施設便り等持参し情報を提供すると共に意見を聞き、運営に活かしていき、また保健師・地域包括支援センターへも積極的に報告相談していきたいと考えている。
重点項目④		日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 盆踊り大会などには、地域の方々や役所、関係者、ボランティアの方に声をかけて参加してもらい連携を広げていき、ホームを知っていただく等の取組みを、日常生活の中に取り込んで行くよう努めている。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービス」として果たすべき役割を目指した独自の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングでは、理念に必ず触れ、サービスの提供場面において迷った時の羅針盤として、職員全員に浸透させている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化展等行事に参加すると共に、地域住民にも呼びかけ陶芸教室を開催している。また、婦人会、商工会等地域の協力を得て施設で盆踊り大会を行う等地域の一員として、積極的に交流の機会を設けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義を十分に理解しており、全職員で評価に前向きに取り組み、見直し等の機会として意識している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は家族・地域住民・行政や地域包括支援センター職員等の参加により、2ヶ月毎に実施しており、ホームの取り組み内容や事故報告書・ヒヤリハット報告書等を課題として検討し、サービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	県及び町村担当者と日常的に連携を図っており、入居者の対応についての相談等、協力を得ている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	管理者は毎月施設便りや行事写真を持参して家族を訪問し、きめ細やかに様子を報告し、更なる情報交換の機会としている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームで食事会を催し日頃から充分に話せる環境・関係作りに努めている。半年に1回の、「ご家族へのアンケート」についても、今後は送付先を本社として、不満や苦情等も表出しやすい様に配慮する事としている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には、各ユニットの職員を固定化し、顔なじみの職員によるケアを心がけている。職員の異動時は入居者や家族の不安を最小限に抑え、スムーズに引継げるよう、職員間で協力して対応している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員や管理者の研修及び資格取得に対して全面的な援助を行い、積極的に職員を育てる取り組みが行われている。またホーム内で伝達研修も実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者や関連の事業所との相互訪問、行事の手助け等随時行っていて、情報交換の機会となっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用に際しては、急な環境の変化に困惑しない様に、家族にも協力してもらい、無理なく職員や事業所の雰囲気に馴染める様工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者本人の生活歴を知る中でその得意分野において力を発揮して貰っており、お互いに協働しながら支え合う関係づくりが行われている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中では十分にコミュニケーションを図り、継続した信頼関係の中で入居者の思いを汲み取り、把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者には日頃の関わりの中で、また、家族には毎月の訪問時等にご意見を聞きながら、主治医等関係者の意見も含めて、スタッフ全員で十分に話し合った上で、介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月1回ケアカンファレンスを開催し、利用者の状態の変化や職員の気づきを取り入れたプランの見直しが行われている。また、急な状態の変化に対しては、その都度対処している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	2ユニットからなっていることから、ユニット間の交流が可能であり、馴染みの関係を尊重する中で利用者の状態に応じた柔軟な対応が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者及び家族の希望する主治医に、訪問診察や定期受診を実施している。受診については、主に職員が介助し日頃の生活状況・バイタルチェック等の記録・治療中の疾病の経過記録等情報を提示し、受診結果についても、ご家族と情報の共有が図られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者や家族の意向を最大限に尊重した看取り介護を行う旨を明記した文書を備えていて、入居時に施設の対応方針として説明している。	○	開設間もない為、重度化した状態や終末期の対応等までは話し合いが出来ていない。経済的負担も生じることから、具体的な情報提供を行いながら、できるだけ早期から話し合いの機会を作り、関係者全体の方針の統一を図っていく事が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりを尊重し、さりげない言葉かけや誘導がなされており、プライバシーを損ねない対応が徹底されている。また、個人情報については、十分に漏洩防止措置がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員全員が「利用者個人のペース」を大切にする様意識していて、時間を区切った過ごし方はしていない。利用者本人の希望を尊重して日々の予定を立て、柔軟に支援を行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつも含めた献立は利用者と相談しながら決めている。また、調理・盛り付け・片付け等も利用者と職員が共に行い、和気あいあいと楽しい雰囲気の中で支援を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は朝9時頃から22時頃迄で利用者本人のその日の希望を確認して入っている。入浴を拒否される方については時間帯・方法等個別にあった入浴の支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	新聞作りや調理・編み物など得意分野で一人ひとりの力を発揮できる様、充分な配慮の中で支援している。また、その場においては職員や他の利用者から感謝の言葉が伝えられている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者はホーム周辺をよく散歩している。また、一時的な帰宅・職員とのドライブ・買出し・新聞づくりの為の写真撮影・園芸等日常的に戸外で過ごせる時間を持てる様工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りを徹底し、日中は鍵をかけずに対応している。利用者が外出した場合にはさりげなく声かけしながら職員が同行している。家族から施錠の希望もあるが説明して理解を促している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時には、警察・消防・役場へ通報し協力を得られる様、働きかけをしている。昨年大雨で孤立状態となったが、警察・役場・近隣等から安否を気遣う電話があり、救急車の出動は無理でもヘリコプターで救急搬送が可能である事がわかり、災害対策を検討する良い機会となった。	○	火災時の避難訓練は実施されているが、今後は災害を想定し、利用者の状態に応じた具体的な避難等の対処についての検討が望まれる。特に2階からの避難設備等については慎重に検討される事が望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を立てる際にバランスよく食品が摂取できるように努めており、また食事や水分の摂取状況についても職員全員が把握できるようチェック表に記録している。一日全体を通じた一人ひとりの食事量、バランス、飲水量を確認している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は居心地良く過ごせるように、家族的な雰囲気になっている。外の景色も取り入れ、十分に季節を感じる事が出来る。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の馴染みの家具が置かれ、家族の写真や小物が配置されており、楽しく生活している。		